

わかば会誌

第20号

2023.8

巻頭言

金沢医科大学病院長
就任にあたり

金沢医科大学病院長 川原 範夫



令和5年4月1日付で高島茂樹理事長から伊藤透前病院長の後任として第13代病院長を拝命いたしました。任期は3年です。この要職に任命いただいたことに深謝するとともに、本学を取り巻く厳しい情勢における重責を痛感しております。

現在金沢大学病院長である蒲田病院長とは昭和58年卒業の大学の同期です。国家試験準備のグループ学習ではいろいろと教えてもらいました。小生はもともと整形外科の中でも脊椎が専門です。金沢医科大学では学生部長、医学部長、副学長を経験してまいりました。また同時に大学病院では副病院長として病院管理の手ほどきを受けてまいりました。

金沢医科大学病院は、“いつでも 誰でも 安心してかかれる病院”をモットーに、特定機能病院として、患者さんや地域の医療機関のニーズに基づく最新、最適の高度医療や医学の進歩に貢献する先進医療を安全かつ効率的に提供することを目指しています。同時に人間性豊かで有能な医療人を育成することも大切な使命です。

病院の新管理体制としては病院担当理事として北山道彦先生（第11代病院長）、副院長として飯沼由嗣先生（感染症科）、川崎康弘先生（神経科精神科）、佐々木洋先生（眼科）、浦本秀隆先生（呼吸器外科）、中村真寿美看護部長、杉森哲也事務長です。また高村博之先生（一般・消化器外科）が病院長補佐として加わっています。

本学の経営状況は決して安泰ではなく、病院においては安定した医療収入をあげることが求められますが、ポスト・コロナ下において来院される患者さんは減少しています。まずは救急医療体制、患者受け入れ体制の強化が必須であると考えています。救急医療センターと各診療科の支援体制を強化し、近隣医療機関、消防本部との緊密な連携のもと、“断らない医療体制”の新しいシステムづくりを行います。

先日6月22日アマンダンヴィラで開催いたしました第23回金沢医科大学病院学術交流会（河北郡市、羽咋郡市医師会共催）に多数の先生方にご参加いただき、誠にありがとうございました。患者さんの紹介・受け入れ体制に関して多数の忌憚のないご意見をいただき、誠にありがとうございました。早速、地域連携部門を強化してまいります。

新任の有能かつスピーディな対応をしていただける副院長、病院長補佐の方々には全面的にバックアップをお願いし、「One Team」で頑張っていきたいと思います。当大学病院の地元である河北郡市の皆様の温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。



わとうゆきひろクリニック

和藤 幸弘

河北郡市医師会の皆様におかれましてはご清祥のことお喜び申し上げます。この度、会員に加えていただき、大変光栄に存じます。2004年から貴医師会に勤務医として入会させていただき、ときどき懇親の席などにお邪魔する中で、医師会の先生方が和気藹藹とし、協調される良い環境に羨望を感じていました。

さて私事、大学定年後は何をするか。選択肢：①全く仕事をせずに遊ぶ。②これまでの続きで医師国家試験参考書等を書く。③臨床のパートを掛け持ちする。④雇われ院長、雇われ施設長…。一方、自分の環境は①これ以上欲しいものもない。②のんびりしたい。③両親、家内も亡くなり介護などのしがらみもない、「自由」。

この状況での心境は、1999年から金沢医科大学で救急医療に携わり、標準的な医療を提供・指導するなかで、あるフラストレーションを溜めたままでした。医学の多くは真理ではなく、定説やガイドライ

ンも変わります。エビデンスという根拠もアヤシイと思うものもあります。精度の高い疫学は現象として受け入れることができて、その上に勝手な考察を積み上げるとアヤシイことになります。疫学はある集団における傾向であって、各個人にあてはまるとは限りません。先生方には普通のことと拝察しますが、個人をよく知り、その個人に最適の医療を提供する。少数の人にでも、よい生活がおくれる手助けができればよい、それをしないと終われないと自分の診療ができる軽装のワンマンクリニックを開きました。いつまでできるかもわかりませんし、地域に貢献する、一人でも多くの病める人の役に立つなど大それたことは考えていません。

現在は、大学の後任が決まっていないので、教室や学生の教育を放り出すわけにいかず、毎日大学に行き、午後に知人の診療をしています。趣味は溪流のフライフィッシングを現在休眠（クマが怖くなったから）し、休日は相棒（ゴールドレトリバー♂10歳）と出かける（ラーメンを食べ歩く）か、ガレージの少し古い車を眺め、たまに公道を走っています。末筆ですが、開業はまったくの初心者です。医師会の先生方にはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、よろしくご指導いただけますようお願い申し上げます。



茶谷医院

茶谷 洋

令和5年4月より茶谷医院に勤めることになりました茶谷洋と申します。子供の頃から、活発（やんちゃ）だった私はよく体中に擦り傷がありましたが、父方、母方の実家がともに開業医で、すぐに赤チン（のちにマーキュロクロム液が正式名称と知りました）を塗ってもらえた環境にいた為か、いつか自分

も開業医として働くことが使命だと考えておりました。ここで開業までの経緯について少し話をさせていただきます。

漫画は大好きでしたが、小説などを全く読んでこなかった私は、文系には全く興味がありませんでした。ただ、幸い数学や物理など、公式に当てはめて答えを導き出す作業には多少の興味があり、藤田医科大学を卒業させていただきました。黒部市民病院で研修をしていたある日、救急室に心室細動患者が運ばれてきました。慌てて何も出来ない自分をよそに循環器内科医が、電氣的除細動を行い、緊急カテを終え、患者と笑顔で会話をしている姿に感動し、循環器内科の道へとすすみ



しばた眼科クリニック

柴田 伸亮・柴田奈央子

河北郡市医師会の皆様初めまして。この度2023年6月14日にかほく市高松で「しばた眼科クリニック」を開業させていただきました柴田伸亮(しんすけ)と柴田奈央子と申します。

今回この場をお借りして自己紹介させていただきます。

我々の出身地はそれぞれ愛知県岡崎市と富山県南砺市です。金沢医科大学眼科に17年と15年在籍しており本年3月に退職いたしました。大学での専門分野は、伸亮は白内障、網膜硝子体疾患、小児眼科（斜視弱視）、鼻涙管疾患を担当していました。学位研究では後発白内障の機序と治療についてというテーマのもと、動物実験などを行ってまいりました。

奈央子は白内障、眼形成外科（まぶた疾患（美容除く））、ドライアイ、結膜疾患（翼状片、結膜弛緩症）を担当していました。学位研究では翼状片発症機序解明に向けてというテーマのもと、細胞実験などを行ってまいりました。

大学では臨床や研究と慌ただしい毎日でしたが、培ったそれぞれの専門分野を生かして地域医療に貢献し、さらに丁寧な診療を行いたいと思い、一念発起し開業に至りました。

開業するにあたり様々な方にサポートしていただき、本当にいい方々に巡り合わせていただいたと日々感謝しております。内覧会では地元の方にもたくさんお越しいただき、温かいお言葉をかけていただき、身の引き締まる思いでした。

この文章を書いている本日は、開業4日目です。あれが無いこれが無いと後で気づくことも多くバタバタしていますが、クリニックを一からスタッフと築き上げていくことを楽しみながら日々頑張りたいと思います。

河北郡市医師会の先生方には大学時代よりいつもご高配を賜り、深く御礼申し上げます。

若輩者ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

ました。研修後は金沢大学に籍をおき、充実していた5年目にふと、将来、開業医として働きたい自分にとって、重症心不全、心筋梗塞管理が、どれだけ必要なのか自問するようになりました。当時、尊敬していた上司の先生に相談をすると、目の前の患者さんに対して全力で医療を行うことが将来、開業医となっても必ず自分の助けになるという助言をいただき、17年の勤務医生活の中、北陸の11施設の病院で、全力で医療を行ってきました。

その間、心機能の低下した心不全（HF_rEF）治療はACE阻害からARNIとなり、心機能の保たれた心不全（HF_pEF）治療にSGLT2阻害剤が出現したり、赤チンが製造中止となったり、時代の流れを感じ

ております。

開業医生活はまだ2ヶ月ですが、勤務医時代に重症心不全や心筋梗塞患者を多数、経験し動脈硬化のリスク管理の大切さを学んでいたことが、現在の自分にとって、大きな礎となっている気がしております。今後も常にUpToDateをしながら、目の前の患者さんに対して最善の医療を行っていきたいと考えております。河北郡医師会の先生方にはご高配を賜り、深く御礼を申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。



医療法人社団角田医院
かくだメディカルクリニック

角田 真弘

皆様はじめまして。2023年5月よりかくだメディカルクリニックに入職いたしました角田真弘と申します。河北郡市医師会の先生方にはいつもご高配を賜り、深く御礼申し上げます。今回、この場をお借りして自己紹介をさせていただきます。

私は高松で育ち、学生生活は高松小学校、金沢大

学附属中学・高等学校、金沢医科大学で過ごしてまいりました。金沢医科大学を卒業後、2011年より国立病院機構金沢医療センターで初期研修を行い、恩師丸川洋平先生との出会いがきっかけで、消化器内科の道を志すことになりました。2年間の初期研修を終え、2013年金沢医科大学病院肝胆膵内科に入局いたしました。堤幹宏教授の教室では、消化器疾患だけ診るのではなく、患者様を全人的に捉えるよう、ご指導賜りました。肝胆膵内科の教室は私の医師としての原点でした。特に、入院患者様のことで同門の先輩や後輩と意見交換を繰り返したカンファレンスはとても懐かしく、私にとって貴重な時間でした。将来は地元で地域医療を担う使命も感じてお

郡市内病院の

石川県立こころの病院

山下 真



石川県立こころの病院の山下真と申します。今年で9年目の医師であり、大変未熟な身ではありますが、折角の機会をいただきましたので私が携わっている依存症ならびに依存症に対する当院の取り組みを紹介させていただきます。

依存症治療は近年世間からの注目を集めており、アルコールはもとより、ギャンブル依存、ゲーム（ネット・スマホ）依存など、様々なタイプの依存症が認知されるようになりました。これほどまでに一般に「依存」という概念が広まったのは、2018年に交付されたギャンブル等依存症対策基本法がきっかけでしょう。このときから「依存」という言葉がアルコールなどの物質依存以外に使われるようになり、これを機に「依存症」が広く知られるようになったと思われます。最近ですと、スマホ依存を題材とした「スマホ脳」（新潮新書刊、アンデシュ・ハンセン著/久山葉子訳）が2021年で最も売れた本（オリコン調べ）に輝いており、こういった話題からも

世間の関心の高さが伺えます。

アルコール依存については、2013年から「アルコール使用障害」という診断が広まったことにより、より予防的な治療が意識されるようになりました。「治療は断酒が必須である（でしかない）」と教科書に書かれていた時代からパラダイムシフトが進み、「減酒（節酒）」を治療目標とした薬剤の認可が降りたこともあって、臨床では大きく状況が変わってきています。当院でも減酒を目標とした治療の提供や、酒浸りの生活から離れるための「解毒入院」などの新たな試みに取り組んでいます。

また他の依存症は非薬物療法が治療の中心となるため、当院でもそれに対応できるよう体制を整えています。ギャンブル依存では公認心理師とマンツーマンで行っていく認知行動療法を提供したり、ゲーム依存でも青年期特有の心理や家族との関わりなどの複雑な問題に対応できるよう当院の児童思春期外来と連携を進めたりと、日々工夫を凝らしています。とはいえ依存症治療ではまだまだ困難に感じる場面が多々あり、もどかしい結果に終わることもしばしばです。今後も地域の皆様に関心とニーズに応えられるよう努力していきたいと思いますので、患者様のご紹介を含めて、当院の活動にご理解とご協力を賜われれば幸いです。

りましたが、大変有難いご縁をいただき、医局を離れ、富山や東京のクリニックで5年間お世話になりました。一般内科外来や消化器内視鏡業務だけではなく、健診・ドックや訪問診療を経験させていただきましたが、患者様に対する接遇や予防医学の重要性、在宅医療の難しさを痛感しました。また、東京では陥凹型大腸癌を世界で初めて発見された工藤進英先生の下で大腸内視鏡の研鑽も積まさせていただきました。「痛みを伴わない」軸保持短縮法による大腸挿入だけでなく、「大腸癌では死なせない」強い信念など、多くのことを学びました。

当院は祖父が1959年に開院し、1988年に父がその後を引き継ぎ、地域医療に従事してまいりました。

そして、沢山の方々のご支援とご協力のおかげで、2023年5月より「角田医院」から「かくだメディカルクリニック」と名を変え、新たにスタートを切りました。幼い頃から祖父や父の姿を見て育ってきたため、医師は身近な存在でしたが、地域の皆様にとって私自身が身近な医師となれるよう、これから尽力していきたいと思います。

この度は河北郡医師会の末席に名を連ねさせていただきましたことを感謝申し上げますと共に、今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

勤務医紹介

公立河北中央病院

太田 秀俊



私は富山県富山市の出身です。高校は富山中部高校を卒業して金沢大学に入学しました。医師は体力だと考え医学部バレーボール部に入部しました。

身長が184cmあったので多少のお役に立つと思ったからです。そうではなかったのです。中部高校では部活の勧誘で最も練習がきついのはバレーボール部だとのことで、写真部に入っていました。ところが医学部バレーボール部は空前絶後の最強黄金時代だったのでした。富山中部、藤島、泉ガ丘、広島修道高校など、進学校に関わらず、県大会優勝や上位の成績を残した時のキャプテンやエースが先輩同輩後輩に多数在籍していらっしゃいました。中部高校で回避した猛練習キャプテンにもつかまっていました。

普段の練習も厳しいのですが西医体前の合宿は1日9時間の猛練習を6日間行います。自分の手足に動けと命令しても全く動かなくなることが何回もありました。

西医体4連覇と全学部での北信越バレーボール大会の優勝が1回ありました。インカレは医学部のカリキュラムから参加不可能だったので辞退しました。

すっかり脳みそが筋肉となった私は、眼科へ入局しました。父は内科医なのですが、内科の講義では、このような加療をすれば10年間の死亡率が10%低下するとのお話が多く、口が上手いわけではない私が患者様を説得する事が困難ではないだろうかと考えました。眼科で白内障手術をすればはっきり良くなるからその点薬ではないだろうかと考えました。青二才の浅い考えでしたね。

さて現在公立河北中央病院眼科では1泊2日または2泊3日の白内障手術を行っています。白内障手術後の重篤な合併症は翌々日の朝までに発生する事が多いとされていますので、自力での頻回の外来通院が困難な方が対象です。一泊二日の方でも退院翌日の朝はかならず外来受診していただきます。その他低侵襲白内障緑内障同時手術〈MIGS〉や外来での翼状片手術、抗VEGF剤の硝子体注射を行っています。

会員の諸先生様にはこれからもご指導ご鞭撻の程宜しく願いいたします。

河北都市医師会の主な行事

(令和5年1月～令和5年の6月末まで)

1. 理事会・総会

令和5年 1月18日(水) 第10回理事会(WEB)
令和5年 1月21日(土) 令和4年度新年総会
中止
令和5年 2月15日(水) 第11回理事会(WEB)
令和5年 3月15日(水) 第12回理事会(WEB)

令和5年 4月19日(水) 第1回理事会(WEB)
令和5年 5月17日(水) 第2回理事会(WEB)
令和5年 6月10日(土) 令和5度定時総会
「ホテル金沢」
令和5年 6月21日(水) 第3回理事会(WEB)

2. 学術研修会

河北都市医師会学術講習会

令和5年4月12日(水)
演題：「大動脈解離と大動脈瘤について」
講師：金沢医科大学 心臓血管外科学 主任教授
高野 環 先生

令和5年5月10日(水)
演題：「COVID-19診療の知見
～ゾコバ錠の有用性について～」
講師：江戸川メディケア病院 院長
古市 基彦 先生

令和5年6月14日(水)
演題：「DKDにおける最近のエビデンスと治療」
講師：金沢医科大学 腎臓内科学 教授
古市 賢吾 先生

河北都市医師会 産業医・生涯教育研修会

令和5年1月12日(木)
演題：「ストレスチェックの見方と
高ストレス者への対応」
講師：石川産業保健総合支援センター 所長
小山 善子 先生



編集後記

お忙しい中、ご寄稿して頂きました先生方には感謝いたします。

金沢医科大学病院学術交流会にて川原病院長より、今後、河北都市からの紹介患者は絶対に断らないとの力強いお言葉を頂きました。その後、地域連携の対応が良くなっていることを実感しているところです。新規開業や継承の先生が増えて世代交代が進んでいます。いずれの先生も志が高く頼もしいばかりです。新型コロナは5類感染症となりましたが、コロナ患者は蔓延しており、加えて小児の感染症が増加しており、駐車場での検査など日々の業務はかえって多忙となっている様に思います。しかしながら、社会はコロナ禍前の日常を徐々に取り戻しつつあります。新型コロナ

が普通感冒として扱われる様になるまで、もうひと頑張りです。

会誌編集委員

久保 隆之、佐藤 宏和、谷口 友基
藤井 亮太、藤田 拓也、政岡 裕之

